

No. 08

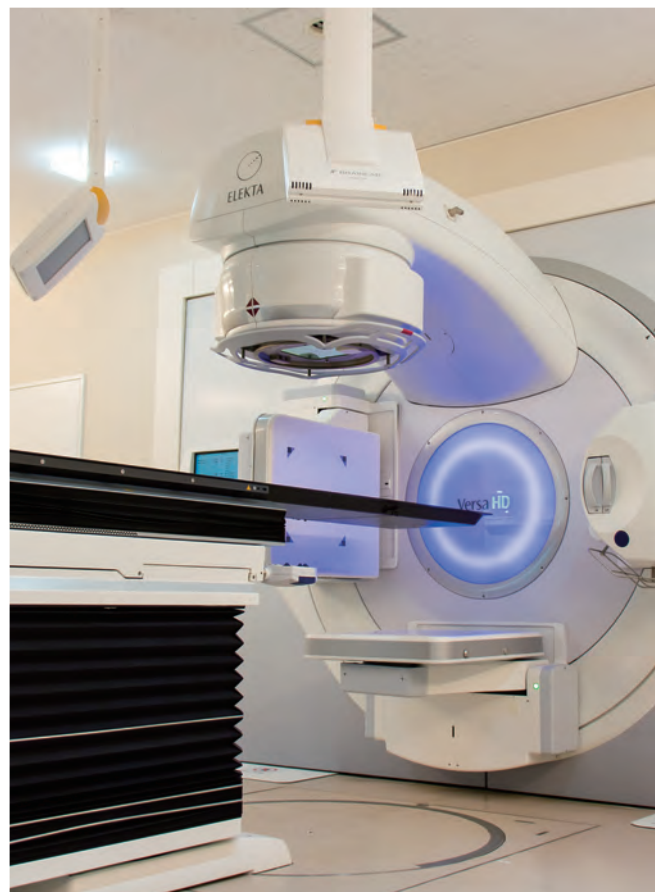
総合病院 土浦協同病院
広報誌 touch (タッチ)
TAKE FREE

touch

contents

ふれあい：歩崎公園

かけはし：久松耳鼻咽喉科皮フ科医院



特集：茨城県地域がんセンター —がんの治療と支援—

がんの 治療と支援

■ がん治療の拠点として

がんは誰もが発症する可能性のある病気です。現在、日本人の2人に1人は生涯のうちにかんを発症すると言われており、死因では男女共に1位となっています。がん治療の体制を整備することは、私たちの健康を守るために大きな意味を持ちます。誰もがなりえる身近な病気だ

からこそ、地域によって医療の質に差があってははいけません。全国どこでも質の高い医療を受けられることができるよう国が整備を進めたのが「がん診療連携拠点病院」です。

茨城県では、さらに地域において高度専門的ながん治療の基幹となる「地域がんセンター」を県内の4ヶ所（平成30年8月現在）に設置。自分の住む地域で質の高い医療を受けられるよ

うな体制を整えています。

土浦協同病院は、地域がん診療連携拠点病院、茨城県地域がんセンターの指定を受けた病院として、当地域のがん治療の拠点となる役割を担っています。また、治療だけではなく、がんを発症した患者さんへの生活に関する様々な支援や、各種ドックによるがんの早期発見、発症を予防するための取り組みも積極的に行っています。



当院のがん診療実績（平成28年）

| | | | |
|----------|---------|---------------|----------|
| 手術件数 | 1,295 件 | 新入院がん患者数（実患者） | 3,167 人 |
| 放射線治療件数 | 319 件 | 病理診断（組織検査） | 7,785 件 |
| 外来化学療法件数 | 6,531 件 | 病理診断（細胞診検査） | 12,957 件 |
| | | PET 検査 | 853 件 |
| | | SPECT | 548 件 |

茨城県地域がんセンター年報より

茨城県地域がんセンター 当院のがん治療

ただ治すだけが、がん治療ではありません。予防、検査、治療法の選択、不安や悩みのケアなど、がんに関わる全ての事柄に対応していくのが当院の役割です。

診断・検査

効果的ながん治療を行うためには、詳細な検査や診察によってがんの状態を正確に知る必要があります。検査の内容は、がんの種類や発生部位によって変わりますが、多くの場合、複数の検査を組み合わせて診断を行います。



検体検査

がんが持つ特徴的な物質が血液や尿にどれくらいあるかを調べる検査。治療効果の見極めや経過観察に用いる。

☑ PET/CT 検査

がんの代謝機能と形態を併せて画像化し、一度に全身を検査できる。
当院の人間ドックにてオプションで実施可能。



画像診断

レントゲン、CT、MRI、超音波などを用いて体の内部を撮影し、細胞の「形態」を調べる検査。画像診断の専門家である「**放射線診断科**」が読影を行い担当医師にレポートで報告。



病理診断

採取した組織から細胞の「性質」を調べて診断を行う。良性か悪性か、最終的ながんの診断に欠かせない検査。当院では「**病理診断科**」が専門性の高い診断を行っている。

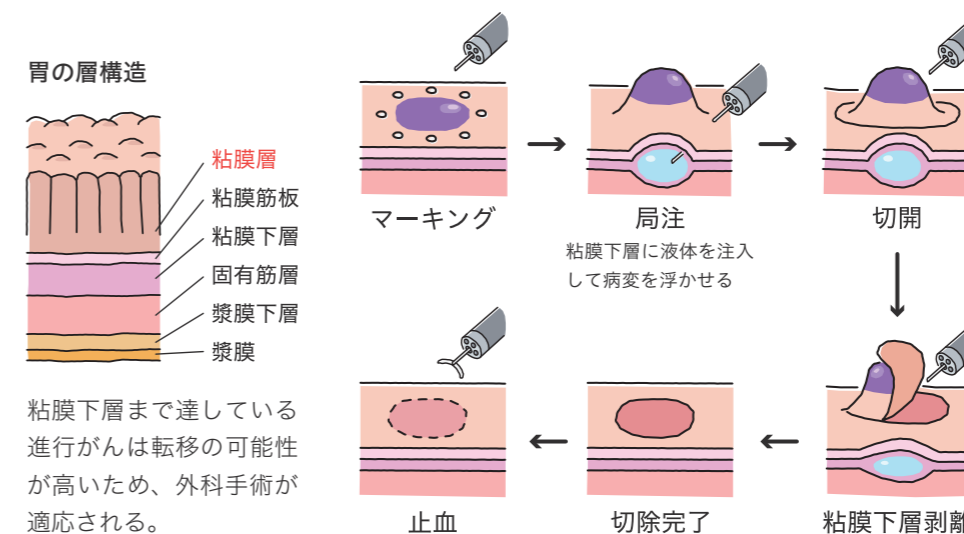


内視鏡治療

内視鏡カメラによるがん治療は、開腹手術などに比べて患者さんの負担が少ない治療法です。内視鏡治療は粘膜（胃や大腸の表面部分）にできた早期がんが対象になります。粘膜より下層に浸潤している進行がんは、外科手術などで治療します。

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

内視鏡カメラを用いて胃や大腸の粘膜にできたがんを切り取る手術。広範囲の病変を切り取ることができる。当院の「**消化器内科**」ではESDを積極的に施行。肝臓がんに対する肝動脈塞栓療法やラジオ波焼灼療法も実施している。



集学的治療

現在のがん治療は主に外科手術、化学療法、放射線治療の3つから、がんの種類や進行度、患者さんの状態に合わせて治療法を選択します。また、これらを効果的に組み合わせることで行われる集学的治療が近年注目されています。当院では3つの治療すべてをカバーし、集学的治療も積極的に実施しています。



外科手術

手術は、病巣や微小な転移が疑われる周辺組織を切り取って治療します。他の臓器に転移のない早期がんにおいては、最も根治が期待できる治療法となります。臓器や体を切るため、患者さんへの負担が大きい治療法ですが、腹腔鏡などを用いた負担の少ない手術も普及しています。



当院の特徴

- ・多くの診療科があり、様々な種類のがんに対応可能
- ・積極的に鏡視下手術を施行し負担軽減に努める

→ touch03号「消化器外科」特集でさらに詳しく！



放射線治療

エックス線やガンマ線、電子線などの放射線を用いてがん細胞の働きを抑制したり消滅させて治療します。根治から緩和まで幅広く対応し、照射技術の向上によって、正常組織への被曝を抑えつつ治療することが可能になってきています。臓器の形態や機能を温存できるのも特徴です。



当院の特徴

- ・IMRT や SRT などの複雑で高度な放射線治療を実施
- ・2台のリニアック（放射線治療機器）を保有

※touchバックナンバーは当院ホームページから閲覧できます

→ touch04号「放射線治療」特集でさらに詳しく！



化学療法

抗がん剤を用いてがん細胞を死滅させたり、増殖を抑える治療法です。特に血液やリンパ系の悪性腫瘍、精巣腫瘍、絨毛がんなどで効果を発揮します。副作用の強さが課題でしたが、新しい薬の開発によって副作用症状を抑える技術が発達。外来でも安全に治療が行えるようになりました。



当院の特徴

- ・がん治療を行っているすべての診療科に対応
- ・新病院移転後、設備の拡充を図り治療環境を整備

→ 今号9ページ「focus」にて詳しく掲載しています。

緩和ケア

緩和ケアは、がん治療に伴う痛みなどの身体的苦痛、がん診断されたことによる心理的苦痛の両方を和らげるための医療ケアです。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、社会福祉士など、専門職がチームを組んで対応しています。また、当院では緩和ケア病棟を設置し、がん終末期患者さんのケアを行っています。緩和ケア病棟は個室個室で、デイルームも他病棟より広くとられています。患者さん、ご家族の気持ちに寄り添いながら穏やかな日々を過ごせるようスタッフ一同取り組んでいます。



緩和ケア病棟のデイルーム

がんはありふれた病気。 だからこそ悲観せず、前向きに。

がんセンター長兼産婦人科部長 島袋 剛二

■ 予防と早期発見

現在、がんの原因として明らかになっているものは遺伝子変異、生活習慣、ウイルス感染などがあげられます。このなかでも生活習慣に関しては禁煙、飲酒制限、適度な運動など、本人の意思があればすぐにでも予防に取り組むことができます。ウイルス発がんとして知られるものに子宮頸がんや肝がんなどがありますが、これらもワクチンの接種や、罹患後においても適切な治療によって発がんのリスクを低減させることが可能です。さらに今後は、個人レベルでがん遺伝子の有無を検索し、その結果に応じて個人に合わせたがん予防を行えるような時代

も間近にきています。

また、当院の予防医療センターでも行っているような従来型のがん検診も早期発見に有効な手段です。がんは進行が進むほど治療が難しくなり予後も悪化するため、早期発見がとても重要になります。ただ、検診の受診率が全体的にまだ低く、その効果を十分に発揮しているとは言えません。例えば子宮頸がん検診の受診率は現在40%前後ですが、欧米では80〜90%の受診率となっています。従来型の検診の実施率をあげるだけでも、がんの早期発見・早期治療に相応な効果を発揮できると思います。検診を受けている方は、毎年きちんと受診されている方が多いのも特徴で、当院におい



ても未受診者の割合を減らしていく取り組みが必要になってくるでしょう。

■ 治療と支援

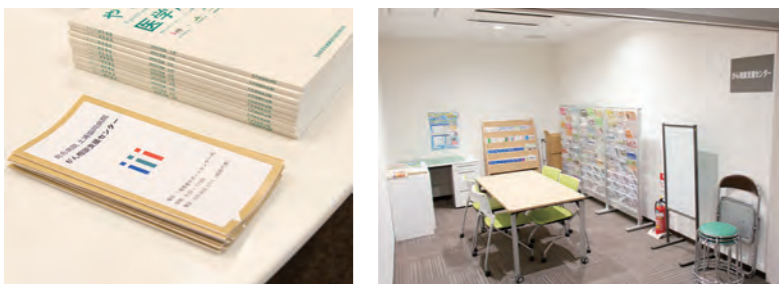
がんの治療は、手術療法、放射線治療、化学療法が従来から言われている治療の三本柱ですが、これらに加えて緩和医療（緩和ケア）も重要視されています。現在は緩和医療も加えた四本柱からがん治療は成り立っていると言えます。緩和ケアと聞くと、末期がんに対する疼痛コントロールというイメージがあるかと思いますが、それだけではありません。そういった身体的苦痛だけでなく、初期がんであっても告知された時から生じる精神的苦痛、社会的苦痛など様々な困難に関する相談を受けて、共に対処していきます。

当院では緩和ケアチームが積極的に介入し、緩和ケア外来や病棟訪問によって、緩和ケア専門医師、精神科医、緩和ケア認定看護師、臨床心理士などの専門家への診療・相談につなげています。また、がん相談支援センターを設置し、ピアサポート

相談やがんサロン、就労相談窓口などの場を提供しています。がん体験者への相談、同じ境遇だからこそできる話などを通じて、精神的苦痛を和らげていただいたり、就労や生活に関する不安を解決する手助けを行ったりしています。その他にも、年に1回市民公開講座を開催し啓蒙の場としています。がん治療に最も効果的

なのは医学的な根拠に基づいた「標準治療」を受けることです。標準治療とは、平均的な治療という意味ではなく、今現在行える最良かつ最善の治療という意味です。患者さんやご家族が、正しい知識をもって治療に望めるよう手助けすることも私たちが医療者の大切な役割です。高齢化が進むなかで、様々な合併症を有するがん患者さんが

当院の取り組み



- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| ③ | ④ |
- ①市民公開講座の様子
 - ②ポスターやデジタルサイネージで周知
 - ③院内で配布しているパンフレット
 - ④がん相談支援センター（裏面にも掲載あり）

増加し、がんの治療だけではないう包括的治療の重要性が高まっています。当院は総合病院として、循環器、脳血管、腎臓、代謝などあらゆる領域のセンター機能を備えており、各診療科と併診しながらがんの治療を遅滞なく行うことが可能です。がんは日本人の2人に1人が罹患し、3人に1人が亡くなるという病気で、これはつまり、最もありふれた病気だとも言えます。悲観することなく、前向きに治療を受けてください。困ったことがあれば相談してください。私たちスタッフが一丸となって、がん患者さんをサポートしていきます。



Profile

島袋 剛二
1984年東京医科歯科大学医学部卒業。1997年4月に土浦協同病院入職。同年10月に産婦人科科長。2006年4月産婦人科部長を経て2013年4月にがんセンター長兼産婦人科部長に就任。

看護部 看護主任
がん化学療法看護認定看護師 鶴田晴美 **no.15**



「その人らしく生きる」
をサポート

がん化学療法看護認定看護師として、がん化学療法を受ける患者さんのサポートを行っています。がん化学療法では、新しい薬剤が次々と開発され、副作用症状のコントロール方法も進歩・普及しています。長期に渡り継続的な治療が可能になりましたが、それは同時に、病気や副作用とも長くつきあっていくということを意味しています。

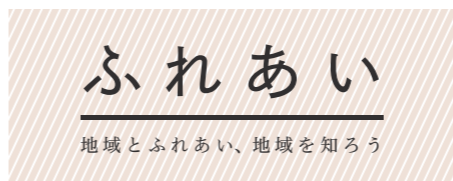
勤続年数：13年 趣味：御朱印巡り、食べ歩き

患者さんにはそれぞれの背景や役割があります。看護師として「治療」だけではなく「生活」の視点を大切にし、その人らしい生活を送りながら治療を継続できるようなサポートすることが最も重要と感じています。
サポートは患者さんの思いに寄り添うことから始まりです。そのためにも患者さんやご家族が、もっと気軽に悩みや辛さなどを話せるような環境づくりをしていきたいと思っています。



歩崎公園

か すみがうら市の出島半島先端にある歩崎は、茨城県で最初に指定された名勝地であり、霞ヶ浦の帆曳船発祥の地でもあります。展望台から霞ヶ浦を望む景観はまさに絶景で、この眺望により茨城百景にも選定されました。
歩崎公園は水郷筑波国定公園に指定された公園で、園内にはかすみがうら水族館や生産物直売所が併設されています。また、公園から少し歩くと数寄屋造りの建物が目印



歩崎公園
かすみがうら市坂 4784 番地地先

のあゆみ庵や、江戸時代中期の住宅などを移築復元した民家園、かすみがうら市歴史博物館、多彩なアスレチック遊具を備えた森林公園もあり、市の自然、歴史、文化を一度に体験することができます。
毎年、期間限定で行っている観光帆引き船の操業や、自転車耐久レース「かすみがうらエンデュロ」、地元のお祭り「あゆみ祭り」など様々なイベントの会場にもなっています。

抗がん剤投与の
安全管理を第一に

がん薬物療法に関わる業務を担当しています。処方鑑査や薬品の取り揃え、抗がん剤注射薬の無菌調製、患者さんへの服薬指導、レジメン登録管理などが主な内容です。
抗がん剤には、一般的な殺細胞性抗がん剤やステロイド薬のほか、近年発売の多くを占めている分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬などがあり、年々増え続けていま

勤続年数：18年 趣味：スポーツ観戦

す。また、薬の組み合わせが複雑な場合も多いため、安全に適正な治療を行うには薬剤師による処方鑑査が重要です。事故防止のためにもガイドライン、学会誌、メーカーからの情報提供など最新の情報を得る必要があります。
細胞毒性のある抗がん剤に接触して汚染されないよう、取り扱いには細心の注意が必要です。患者さんはもちろん医療スタッフも含めた安全管理体制の強化・充実を図っていければと考えています。

薬剤部 薬剤主任
がん薬物療法認定薬剤師 猪瀬成史 **no.16**



レジメン：抗がん剤治療で使用する様々な薬剤の投与量、種類、期間、手順などを時系列で示した治療計画

かけはし

地域の健康をまもる
連携医療機関の紹介

Vol.10



久松耳鼻咽喉科皮膚科医院

住所：茨城県土浦市中央 1-12-22
電話：029-821-0574
診療科：耳鼻咽喉科、アレルギー科、皮膚科
診療時間：午前／09：00～12：30 午後／14：00～18：00（耳鼻咽喉科）
：午前／09：00～12：30 午後／15：00～18：00（皮膚科）
休診日：日曜、祝日、木曜日（皮膚科のみ土曜日午後休診）

ご挨拶
当院は、私の祖父が昭和16年に久松耳鼻咽喉科医院として当地に開院しました。祖父、父と続き、現在は私が耳鼻咽喉科診療を行っています。平成15年に皮膚科医師を迎えてからは、久松耳鼻咽喉科皮膚科医院として耳鼻科・皮膚科ともに専門医が診療にあたっています。

耳鼻咽喉科診療においては、一般的な疾患はもとより、アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）に対するレーザー治療や舌下免疫療法などを行い、良好な結果を得ています。めまいに対しては、重心動揺検査を用いた診察を行っています。また、補聴器の相談や実施指導、睡眠時無呼吸症候群の検査も随時行っています。

皮膚科診療では、一般保険診療のほか、IPLやレーザー脱毛などの美容相談も含めた総合的な診療を行っています。

土浦協同病院には、専門外来への紹介や共同機器利用、入院対応などでお世話になっております。今後も、良好な連携関係を築き、共にこの地域の健康を守っていかれたらと思います。

アクセスマップ



久松 雄志 院長



おしえて！ touch先生

—医療にまつわる事柄を分かりやすく解説—

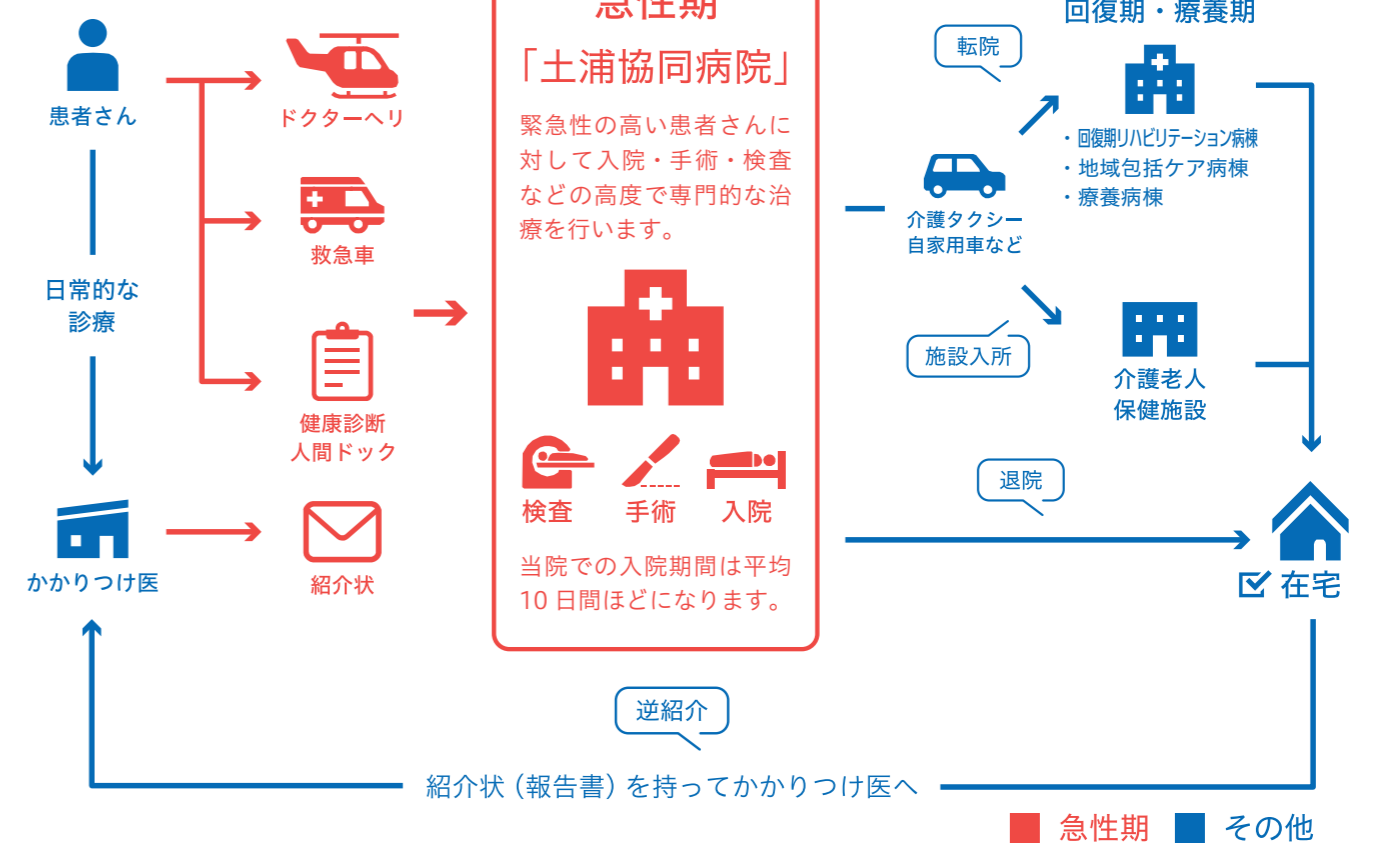
1 土浦協同病院の役割
時間目 - 急性期医療と地域連携 -

医療資源の有効活用

超高齢社会を迎えた日本では、医療提供体制の変革が不可欠となっています。ひとつの病院だけで全てに対応するのではなく、地域全体が連携し、医療や介護、生活支援も含めた「地域包括ケア」を推進していく必要があります。地域において限りある医療資源を有効活用することが適切な医療の提供につながります。

急性期とは、病気や怪我が発症し、急激に症状が現れている期間を指します。当院が担う急性期医療は、病気や怪我への初

連携による医療提供の流れ



回復期、療養期

症状が安定した患者さんは連携する病院に転院して回復期や療養期の治療を行ったり、かかりつけ医へと逆紹介して日常的な診療を行います。

在宅

訪問診療や訪問看護、訪問介護、通所サービスなどの在宅医療を利用します。特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホームは在宅扱いとなります。

期対応を行い、回復の見込みをつける間までに行う医療です。急性期医療の提供には、高度な医療機器や手術室、救命救急センター、集中治療室など様々な設備が必要です。急性期医療が必要な患者さんを常に受け入れられる体制を整えるために、回復期・療養期を担当する医療機関や、かかりつけ医と連携しながら地域全体で健康を守っていくことが大切です。

がん相談支援センターでは、がんに関する様々なご相談をお受けしています。お申込みは1階のがん相談支援センター(患者サポートセンター内)もしくはお電話にて承ります。相談はすべて無料です。

ピアサポート相談 がん体験者がお話を伺います

ピアサポーター(がん体験者)が、がんに関する様々な悩みを伺います。

日程 毎月第1月曜日 | 場所 1F がん相談支援センター
時間 13:00 ~ 16:00 | 利用 予約優先

がんサロン「えがおの会」 がん患者やそのご家族の集いです

がん患者やそのご家族が集まり、自由にお話しをする場です。

日程 毎月第3火曜日 | 場所 2F カンファレンス室
時間 13:00 ~ 15:00 | 利用 予約不要(会場にお越しください)

社会保険労務士による就労相談窓口 治療と仕事の両立を手助けします

がん患者さんやご家族を対象に、治療と仕事の両立を図ることができるよう、社会保険労務士が無料でご相談をお受けしています。

日程 毎月第4水曜日 | 場所 1F がん相談支援センター
時間 13:00 ~ 16:00 | 利用 予約優先

お申込み：患者サポートセンター(8:30 ~ 17:00) 029-830-3711

患者さまの声

→ voice

受付時間が表示されている掲示板に受付番号も表示してほしい。1階ロビーなどで休んでいる時に番号も見えた方が利用しやすい。「9:30～」とかの表示だとあわてて診察室近くに行っても、そこからかなり待つことがあるため、どこの掲示板でも番号が表示されるようにして下さい。

← answer

大変ご不便をおかけしております。現在、全診療科の診療状況をお知らせするモニターを、セブンイレブンを1階交流広場に設置しておりますが、このモニター1台に4ケタの受付番号を表示することは、表示件数的に難しい状況です。他の方法も含めて今後も引き続き検討してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



歩崎公園

編集後記

表紙の写真はがん治療に関係するものの一部です。がん治療は多くのスタッフが協力することで成り立っていると改めて実感しました。次号のtouchは10月31日発行予定です。また、バックナンバーは当院ホームページから閲覧できます。

touch(タッチ)は土浦協同病院の広報誌です。タイトルには、地域とふれあい、私たちの理念を地域の皆様に届けたい、という願いを込めました。

発行所/総合病院 土浦協同病院
編集/病院機関誌委員会 地域医療連携室
発行人/酒井義法
MAIL/general@tkgh.jp